

Ledya Home Doctor

レディアホームドクター

診察室

ソケイヘルニア(脱腸)のメッシュ手術について

下腹部のもの付け根の部分を「ソケイ部」といいます。腸などの臓器は、おなかの筋肉を覆う筋膜がしっかりと覆われていて、通常外へ飛び出してくることはありません。ところが、特に大人のソケイヘルニア(脱腸)は、本来ならおなかの中にあるはずの小腸などの一部が、ソケイ部の弱くなった筋膜の間から皮膚の下に飛び出てくる病気です。ソケイ部の筋膜が弱くなる40歳以上の男性に多く起こりますが、女性にも起こります。

ソケイ部にできる軟らかい腫れ 戻らないと命にかかわることも

ソケイヘルニアが起こると、立った時やおなかに力を入れた時に、もの付け根の皮膚の下に小腸などが出てきて軟らかい腫れができません。内容物が出たり入ったりしている間は、ソケイ部に軽い痛みやつっぱり感が起こる程度です。しかし内容物が飛び出して押さえても戻らなくなる症状を、ヘルニアのカントンと言います。飛び出した腸が筋肉で締め付けられ腐ってしまう場合があり、急いで手術をしなければ

命にかかわることになります。

人工膜でふさぐ手術方法が 入院期間短く、再発率も低い

ソケイヘルニアは手術をしないと治りません。従来はヘルニアが出てくる部分の両側の筋膜を縫って寄せる手術が行われていましたが、最近ではヘルニアの出口を「メッシュ」という人工の膜でふさぐ手術が行われています。メッシュを使う手術にもいろいろありますが、「ダイレクトクレーゲル法」という方法では、4〜5センチの皮膚切開で、ヘルニアが出てくる部分の筋膜の間からその奥に直径約7〜10センチ大の円形のメッシュを挿入し、筋膜が弱くなってヘルニアが出やすい部分を広く覆い、補強します。筋膜に過度の緊張がかからないため、術後の突っ張り感や痛みが少なく、入院期間も以前より短期間で済みます。また術後の再発率も従来法よりずっと低くなっています。



術後の痛みも少なく日帰り 日常生活にも早期に復帰

さらに麻酔法なども工夫することで術後の痛みはほとんどなく、手術が終わって2時間程度で歩いたり食事をとったりできるようになります。最近ではあまり入院せずに家でゆっくりしたい方、仕事の忙しい方などのために日帰り手術を専門に行う施設が全国各地で次第に増えてきており、手術を受けた当日に家へ帰ることもできます。仕事への復帰も以前よりかなり早い時期に可能となっています。ソケイヘルニアの症状がある方は早めに専門医を受診して下さい。



解説医師

江田 泉 先生

医療法人社団操仁会 岡山第一病院
院長 医学博士

1987年岡山大学医学部卒業、同第二外科に入学。公立雲南総合病院、府中総合病院外科部長などを経て、2008年4月より現職。ソケイヘルニアの日帰り手術などにも取り組んでいる。外科専門医。消化器外科専門医。

■岡山市中区高屋343 ■TEL.086-272-4088

URL:<http://www.okayama-daiichi.jp>